

令和7年度 浜松市立開成中学校 学校評価

【校訓】開物成務
 【学校教育目標】夢に向かい共に磨き合う心豊かな生徒の育成

1. 令和7年度の取り組み

〈知〉自ら考える 目標をもち進んで学ぶ生徒	〈徳〉自他を思いやる 心豊かで自他を大切に する生徒	〈体〉根気強く成し遂げる たくましい心身をもつ生徒
【学校運営の重点】 I 確かな学力の育成“基礎基本の重視” ①授業開始10分導入時の工夫…魅力ある導入と終末の一貫性・教員相互参観 ②ICTの効果的な活用…教員のスキルアップ→「授業」「行事」における積極的活用 ③ユニバーサルな授業展開…評価の在り方研修・ゆずりは学級との連携 ④年間指導計画の作成 II 自立・自律に向けた指導“自分で考え行動できる” ①生徒が前面に立つ主体的な活動 ②外国人指導の充実…ユニバーサルな視点での指導・チームでの指導 ③いじめ0に向けた活動…教師の側から、生徒の側から ④部活動地域展開に向けた準備	III 地域との連携“地域と学校がWIN-WIN” ①ボランティア活動の推進…本校の良さに生徒の称揚・地域で学ぶ ②CSの活用…学校運営方針・職場体験・ボランティア・部活動地域展開に向けた協議 ③校舎大規模改修計画の共有化…発達学級・部活動・外国人初期適応教室設置など IV 危機管理体制の充実“生徒、教員、地域の方々の健康維持・増進が第一” ①教師・生徒・保護者・地域との信頼感の醸成 PTAの在り方研究 ②感染症・天災に備える⇒防災教育 さくら連絡網 ICTのスキルアップ ③報・連・走・相⇒まずは話を聞く 小さなことこそ丁寧に処する	

2. 自己評価

○ 生徒の評価

	評価項目	肯定的
(1)	私は、自分で学習内容や学習時間を決めて、家庭学習に取り組んでいる。 (1学期 私は1週間を平均して、1日1時間以上、家庭学習に取り組んでいる。(塾等を含む))	54%
(2)	私は、授業でしっかりと話を聞いている。	90%
(3)	私は、授業で「もっと知りたい」と思って取り組んでいる。	72%
(4)	私は、学校が楽しい。	87%
(5)	私は、学級が安心できる。	81%
(6)	私は、進んで挨拶をしている。(1学期 私は、さわやかな挨拶をしている。)	80%
(7)	私には、夢や希望がある。	69%
(8)	私は、毎朝、朝食を食べて登校している。	91%
(9)	私は、部活動が楽しい。	86%

○ 職員の評価

- 「体育大会」から「体育祭」へと名称を変更したが、種目決めの段階から生徒が行うなど、主体性を育む場となった。
- 道徳授業のローテーションは生徒にとっても教員にとってもプラスの効果があったと思われる。
- 全体的に「授業でしっかりと話を聞いている」生徒が増えている。また、教職員は「授業において、生徒が自分自身の考え・意見を持つように指導している」評価が高い。その一方、生徒が「授業で『もっと知りたい』」とって取り組んでいる生徒が7割程度にとどまっている。また、基礎基本の定着に課題がある。
- ICTを活用した授業を行っている教員が5割弱である。道徳授業では活用の仕方を学んだ。オクリンクプラス等の活用方法を学ぶことも必要ではないか。
- 自分で学習内容や学習時間を決めて、家庭学習に取り組んでいる生徒が5割から6割である。教職員からの指導・支援も約5割にとどまっている。家庭学習の在り方、課題の内容等も検討が必要である。
- 「私は、学校が楽しい」生徒は85%強であるが、「私は、学級が安心できる」生徒は80%ほどである。

○ 保護者の評価

	評価項目	肯定的
(1)	開成中の生徒は、学習・行事・部活動等の様々な活動に主体的に取り組んでいる。	93%
(2)	開成中の生徒は、地域の人に挨拶をしたり、礼儀正しく接したりすることができている。	77%
(3)	開成中の生徒は、地域の行事やボランティア活動等に積極的に参加している。	74%
(4)	学校は、学ぶ楽しさを感じられる授業を行っている。	80%
(5)	学校は、さくら連絡網等で必要な情報を発信している。	93%
(6)	学校は、教育相談等、相談がしやすい環境が整えられている。	82%
(7)	学校は、いじめが起きにくい環境づくりに努めている。	79%
(8)	学校は、生徒へのアンケート等を通して、いじめの早期発見に努めている。	82%
(9)	学校は、いじめや問題が生じた場合、迅速に対応している。	82%

3. 学校運営協議会による学校関係者評価

- 来年度から発達支援学級の受け入れが始まるが、「発達支援教育充実のための研修をしている」の肯定的回答は56%と高くない。発達支援学級の先生の研修会や、他校への見学会を通して研修を深めてほしい。
- 「私は、学級が安心できる」の質問の結果で、1年生の評価が前回よりも下がっていることが気になる。質問の仕方を具体的にしたらどうか。
- ボランティア活動への積極的な参加についての肯定的回答が、教職員は92%なのに対し、保護者は74%であり保護者にきちんと伝わっていないことが伺える。保護者の認識を変えていくような取組が必要である。
- 今後の改善方針に「心理的安全性を高める」とあり、いいところに着眼していると思う。
- 人間関係や社会性を身に付けさせるのも基本は家庭教育。学校も努力してくれているが、もっと家庭へアプローチをしていくことが大切だと思う。

4. 今後の改善方策

- 生徒主体の体育祭や文化発表会を計画したり、学級運営委員会を実施したりして、さらに生徒の主体性を育む教育活動を推進していく。
- 輪番制による朝の会、帰りの会、道徳授業をはじめとして、学年職員全体で教育活動に取り組んでいく。
- 効果的なICTの活用の仕方について研修の機会を設定したり、積極的に教員が授業を見合ったりして授業改善に努める。
- 自ら学習計画を立て、自己調整しながら学習が進められるよう、ガイダンスを行ったり、手引を作成したりして、生徒の主体的な学習を支援する。
- 学級や授業の中で、間違っても許される「心理的安全性」を高める働きかけを行うとともに、「自分のよさを認め、自分を大切にする」意識や、「違いを認め、思いやりを持って関わる」意識を高める働きかけをしていく。
- 認知したいじめに対するその後の見届け(解消に向けた取組)、声掛けの継続的实施に努める。
- 学校が行っているいじめ未然防止・早期対応について広く保護者に周知する。年間計画にソーシャルエモーショナルラーニングを位置付け、実施することによりいじめ未然防止につなげていく。